

## 2. 大学におけるモデルプログラム実施から見てきた課題

本年度の実施状況および受講者アンケート調査の結果等を踏まえ、本モデルプログラムを大学において、さらに発展させるための課題を以下に列記する。

<p>(1) プログラム構成・内容について</p>	<p>○本プログラムは、①意識づけ、②知識の習得、③ネットワーク構築を主な目的として、「企業経営層講演」「必修講座」「コース別選択講座」「勉強会ゼミ」及び「交流会」の5つのカテゴリーにより構成されていた。</p> <p>○受講者の経歴や知識、動機がある程度均質化されている（もしくは均質化できるようこちらが受講希望者を選定する）という前提で、予測的にプログラムを計画し、プログラムの内容については受講者から一定の評価が得られたと考えるが、ターゲットの絞り方、実施期間や講座等については検討の余地がある。</p> <p>○「易しかった」「難しかった」という難易度に関する受講者の指摘については、下記(3)とも関連して、受講者の知識や経験等により均質化を図ることが肝要である。受講者のニーズに応じて研修内容を設定するほか、受講者自身が、目標達成度の確認と、振り返りを試みる仕組みも有効であろう。</p> <p>○「物足りない・消化不良」という受講者の指摘については、受講者層の均質化のみならず、実施期間・講座の回数などの組み立てを見直すことが必要である。</p> <p>○「研修の目的や各講座のゴール設定が不明瞭」という指摘については、ゴールを示していたシラバスの役割を受講者に訴求できていなかったことから、今後はシラバスを早めに示す、オンラインやSNSでシラバスを常時参照可能とする、事前Q&amp;Aを受け付けるなどの改善が考えられる。また、ゼミのタイトルは受講者のニーズを把握するとともに、内容に即した分かりやすいタイトルや副題によって、受講者が学びをイメージできるようにすることが重要である。</p>
<p>(2) 勉強会ゼミ</p>	<p>○ゼミへの評価は高く、ゼミ形式の研修には効果があることが示唆される。少人数クラスで、業務や経験が異なるメンバーと複数回にわたって学びを共有できたことは効果的であった。</p> <p>○一方で、アンケートのコメントでは、回数が少ないことや、ディスカッションの時間が不足したという回答があったことから、研修全体の期間を6か月程度、うちゼミ形式は回数を増やしつつ、6時間程度以上あれば、ディスカッションにおける他社との情報共有や発表、フィードバック、質疑応答等により、理解がより深められると考える。</p>

	<p>○勉強会ゼミをさらに効果的なものにするためには、理論と実践の融合を軸に内容をブラッシュアップし、理論と現実のギャップに焦点を当てたグループディスカッションなども有効であろう。</p> <p>○「1泊2日」「2泊3日」程度の合宿型は、業務を離れてしっかり取り組める点において有効と考えられる。これらは受講者のレベルを講師が把握し、途中で調整が行いやすいなど、プログラム提供側にもメリットがあると思われる。</p>
<p>(3) 対象者・募集方法について</p>	<p>○募集対象者は、「近いうちに内部昇進により役員になることを期待される上級管理職」としたが、受講者の職歴や経験に差がみられ、課題や目標にバラつきがあり、議論の質が深まらない場面があった。</p> <p>○対象者と目標を明確化した研修を組むことは、より参加者のニーズに対応したプログラムを実現するとともに、特に勉強会ゼミにおいては、ゼミ活動が活性化するものと期待できる。ただし、その場合、経験値の高い受講者のニーズは専門性が高く、且つ多様なため、長期的研修プログラムの準備が必要となるか、個別のニーズに応じた専門的プログラムへの誘導が必要となる。</p> <p>○受講者層を合わせていくためには、募集段階での工夫が必要となる。</p> <p>○当初の募集期間（11/5～22）が短期間であったため、動機付けも含め女性エグゼクティブ層を選ぶには、募集期間が短く参加を見送った企業もあったかと思料する。募集期間を長くとることに加え、早期から事業の存在について広報し、また募集時には研修でどのような対象者を求めているか、具体的に明示することが重要である。</p> <p>○募集要項にある対象者「近いうちに、内部昇進により役員になることを期待される上級管理職の方」という表現に対し、ハードルを高く感じ応募をためらった方も少なくなかったかと思われるが、研修プログラムの難易度やゴール設定の策定のためには参加者層の絞り込みは引き続き必要であろう。</p> <p>○募集に際し、応募者にエッセイ、もしくは企業側に推薦書を課すことも一案ではないか。自らの役員就任に対する意識を志望動機として論じておくことは応募者自身にとっても、またゼミ担当講師が受講内容を組み立てる際にも極めて有効であり、事前に個別ニーズが分かれば、広く浅い、物足りない、などの要望に対応可能となるであろう。また、研修後のフィールドである企業の人事や推薦者へのコミットも必要と考える。</p> <p>○募集にあたっては経済団体との協力も十分検討する必要があると考える。</p>

<p>(4) 大学が実施することについて</p>	<p>○研修評価が高かった「ゼミ形式」において、同じような立場の受講者とのやり取りや、専門家のファシリテーションは、講義や講演とはまったく異なる経験であり、同一の講師の下で複数回実施できることが大学の強みを活かした研修スタイルだと考えられる。</p> <p>○大学には専門の研究者が多数おり、その多くが専門的で多様なネットワークをもっている。研究者のネットワークを利用すれば、多様なプログラムを組むことも可能であろう。例えば、今後は研究機関であるからこそ集められるケーススタディを行う機会を増やすことも考えられる。</p> <p>○また、今回は時間的な不足を補うため、ゼミの担当講師と受講者の熱意により「自主ゼミ」が学外で行われた。このようにゼミのスケジュールリングや場所に柔軟性を持たせることなども有効であるかもしれない。</p> <p>○ハウトゥーではなく、理論的・本質的な内容を踏まえた上で受講者に新たな知見を提供できることが大学の強みである。アカデミックは現実から離れて抽象的だと批判を受けることもあるが、多くの研究者は長い歴史と広い社会の中で自らの立ち位置を捉えるように、長期のトレーニングを受けている。長期的かつ広い視野と、批判的な視点の育成は、将来の優秀な役員の育成にとっても、何らかの利益をもたらすものとする。</p> <p>○また、役員を目指し、より質の高いビジネスを展開するための「意識づけ」には時間がかかることから、「教育的手法」によって長期的に向上を促せるという意味でも、民間講座やコンサルティングサービスとは異なる大学の長所を生かせるものと思われる。一方で、この点は短期的な効果測定を困難にするという課題もはらんでいるため、大学によるフォローアップは重要である。</p> <p>○本研修の改善には受講者アンケートの分析、考察が有効であり、大学において専門家が担当することの有効性は高いと考える。</p>
<p>(5) ネットワーク構築について</p>	<p>○今回は初回と5回目に実施。5回目には5名の役員ロールモデルを迎えて交流会を行い、おおむね好評であったが、ロールモデルの方の経験などをしっかりと聞く機会をどのように設けるかは検討が必要。</p> <p>○本研修の受講者は勉強会ゼミ及び交流会等を通じて、ネットワーク、人脈の重要性に気付いたが、これらが効果を上げるには継続性が重要である。一過性なものとせず、自主勉強会や同窓会へ発展させるなどの仕掛け、仕組みが必要であるとする。</p>

<p>(6) ICT活用について</p>	<p>○3回にわたる勉強会ゼミにおいて、教員と受講者とのコミュニケーションツールとしてICT (Google Classroom) を使用した。本システムは、アカウントを取得しWi-Fi環境があれば、個人のPCやスマートフォンからのアクセスについては、汎用性と操作性の高いものであったが、受講者の多くが業務多忙の折、会社のネットワークから使用することを前提としていたため、企業によってはセキュリティの関係で使用できないとの意見が少なからず寄せられた。</p> <p>○結果としてゼミ担当者がPCメール、Google Classroom、LINE、Facebookメッセンジャーなど受講者のアクセス環境に合わせて同じ情報を4回配信することとなり、この手段での事前課題、質問などのやり取りに難しさがあった。</p> <p>○多様なセキュリティレベルからのアクセスを受容できるプラットフォームの採用も考えられるが、これには専門技術者によるネットワーク環境整備が求められ、新たな設備投資を必要とする。</p> <p>○大学が本研修を担当するメリットとしてのゼミ活動の有効さに着目する場合、ICTの機能とその操作方法など事前学習を通して使いこなす方策を講じることが今後の課題と考える。</p>
----------------------	---

#### <分析調査・ネットワークに対する課題について>

昭和女子大学では、本研修における以下の分析調査及び、ネットワーク構築に対する支援の継続を検討している。

- 今後さらなるデータの蓄積と、インタビューなどの質的な分析により、本研修が役員就任へ役立ったか等の効果検討。
- 今回の研修で培ったネットワークをさらに発展するための支援策
  - ①自主勉強会での本学施設の提供
  - ②本学ダイバーシティ推進機構が主催するセミナーの案内（年4回程度）
  - ③社会人女性向けの本学キャリアカレッジ同窓会への招待（年1回）